

2019年度 第1回 次世代陸モデル開発・応用・社会実装に関する合同ワークショップ

日時：2019年10月8日（火）～9日（水）

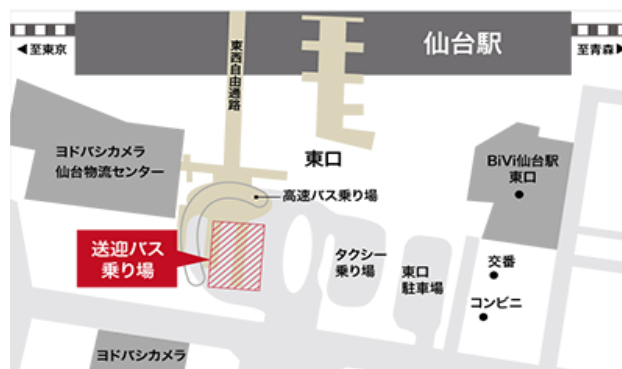
会場：山形県蔵王たかみや瑠璃倶楽リゾート (<http://www.zao.co.jp/rurikura/>)

※仙台駅から貸切バスを手配していますので、会場への移動にはそちらをご利用いただくのが便利です。

・タイムスケジュール一例（貸切バスを利用する方向け）

Oct. 8, Tuesday		Oct. 9, Wednesday	
7:56	東京駅発（はやぶさ 103号）	7:00- 9:00	朝食、チェックアウト
	↓		
9:30	仙台駅着	9:30-12:30	検討会
9:50	仙台駅発（貸切バス）	12:30-13:30	昼食
	↓		
11:10	会場着、チェックイン	14:00	会場発（貸切バス）
			↓
12:00-13:00	昼食	15:30	仙台駅着
13:00-18:30	検討会	15:57	仙台駅発（新幹線）
			↓
18:30-20:30	懇談会	17:32	東京駅着

※復路の新幹線の時間は会議の進行状況や道路の渋滞具合で変動することが予想されます



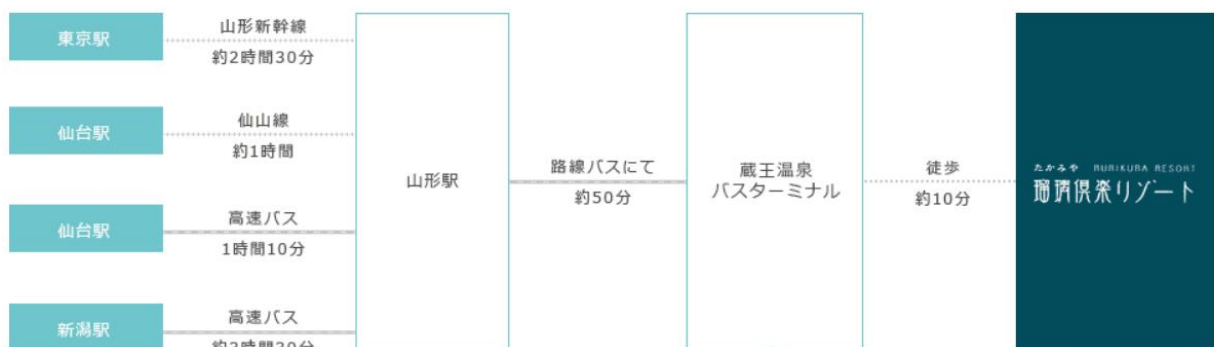
貸切バス集合場所：仙台駅東口観光・送迎バス乗降場

・緊急連絡先

住所：〒277-8574 千葉県柏市柏の葉 5-1-5 東京大学生産技術研究所 附属千葉実験所 芳村研究室

電話番号：04-7136-6965（芳村研究室）

電話番号：080-1052-3477（旅行代理店 OASIS 河西）



無料送迎いたします。

バスターミナルに到着後、ホテルにご連絡ください。
(車で5分ほどでお迎えに参ります。)

☎ 023-694-2520



会場へのアクセス (貸切バスを利用しない方向け)

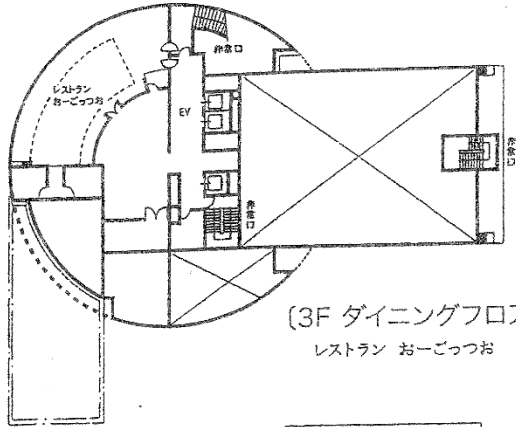
■ 山形駅 → 蔵王温泉 バス時刻表 (予約不要 : 大人片道1,000円、こども片道500円)

山形駅～蔵王温泉		蔵王温泉～山形駅	
山形駅発	蔵王温泉着 (バスターミナル)	蔵王温泉発 (バスターミナル)	山形駅着
6:50	7:23	※7:00	※7:45
7:40	8:17	7:50	8:35
8:40	9:17	8:40	9:25
9:20	9:57	9:40	10:25
10:20	10:57	10:20	11:05
11:20	11:57	11:20	12:05
12:20	12:57	12:20	13:05
13:20	13:57	13:20	14:05
14:20	14:57	14:20	15:05
15:20	15:57	15:20	16:05
16:20	16:57	16:20	17:05
17:40	18:17	17:20	18:05
18:55	19:32	18:40	19:25
※20:00	※20:34	19:50	20:27

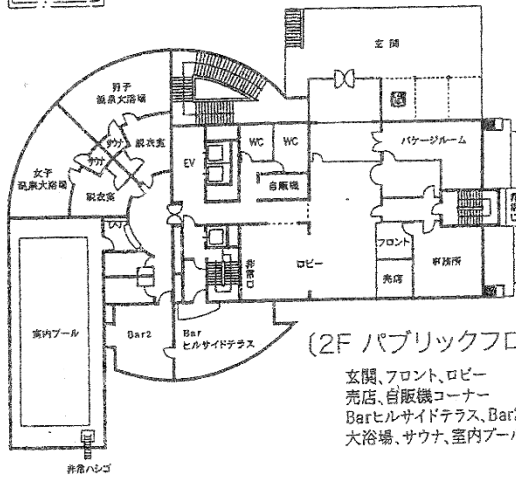
※土・日・祝、4/27～5/6までのGW期間中、8/13～8/16、12/29～1/3は運休

路線バス時刻表 (山形駅～蔵王温泉バスターミナル)

館内ご案内



(3F ダイニングフロアー)
レストラン おーごっつお

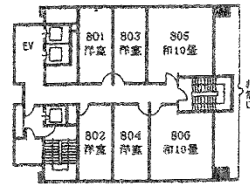


(2F パブリックフロアー)
玄関、フロント、ロビー
売店、自販機コーナー
Barヒルサイドテラス、Bar2
大浴場、サウナ、室内プール

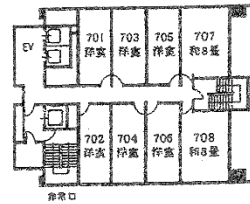


(1F コンベンションフロアー)
コンベンションホール
プラネット

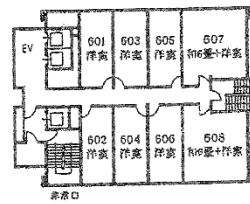
発表会場、懇談会場
(コンベンションホール)



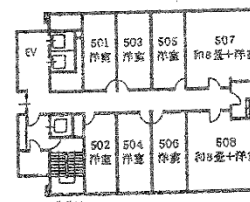
(8F 客室フロアー)



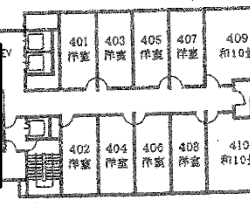
(7F 客室フロアー)



(6F 客室フロアー)



(5F 客室フロアー)



(4F 客室フロアー)

会場（山形県蔵王たかみや瑠璃倶楽リゾート）案内図

検討会プログラム（敬称略）

・1日目（10月8日）

13:00－13:10 趣旨説明

芳村 圭（東京大学 生産技術研究所）

13:10－13:30 ILS 開発の進捗

新田 友子（東京大学 生産技術研究所）

13:30－13:50 ソフトウェアとしての ILS

荒川 隆（高度情報科学技術研究機構）

13:50－14:10 ILS への H08 の結合

竹島 滉（東京大学 大学院工学系研究科）

14:10－14:30 気象庁全球モデルの近年の陸面過程開発について

鍋谷 堯司（気象庁 予報部数値予報課）

14:30－14:50 気象庁領域モデルの陸面過程開発と今後について

草開 浩（気象庁 予報部数値予報課）

14:50－15:10 休憩

15:10－15:40 降雨流出現象の解明と RRI モデルの開発

佐山 敬洋（京都大学 防災研究所）

15:40－16:00 陸域モデルにおけるサブグリッド物理の再考

山崎 大（東京大学 生産技術研究所）

16:00－16:20 スケーラブルな地下水流動モデルの開発

三浦 陽介（東京大学 大学院工学系研究科）

16:20－16:40 全球河川・湖沼水温モデルの開発と検証

徳田 大輔（東京大学 大学院工学系研究科）

16:40－17:00 メソ対流系の発生に対する陸面の寄与

佐藤 友徳（北海道大学 大学院地球環境科学研究院）

17:00-17:30 **Lightning Talks** (一人3分)

※ポスター発表の方は自己紹介も兼ねてポスターの概要紹介をお願いします

17:30-18:30 **ポスターコアタイム**

※ポスター発表の詳細は下記にあります

18:30-20:30 **懇談会**

※アルコール代として一人2000円を徴収させて頂く予定です

20:30- **2次会特別企画**:「2年後・5年後・10年後に行ってみたい研究(仕事)の野望」

※2次会参加者全員、一人3分以内で口頭のみも可(宴会場に移動して行います)

ポスタータイトル (縦方向A0サイズでお願いします)

1. 気候モデルの陸面過程における流出スキームの検討
高田 久美子 (国立環境研究所)
2. 大規模アンサンブル氾濫解析による自然地形と水害リスクの関係性の検討
山田 真史 (京都大学 防災研究所)
3. 分布型モデルへの適用を目的とした鉛直不飽和浸透のモデル化
菅原 快斗 (京都大学 防災研究所)
4. サブグリッド飽和側方流を考慮した全球流域モデル CLI-MAT
足立 幸太 (東京大学 大学院工学系研究科)
5. 全球河川モデルの河道断面に適用可能な物理的堤防パラメータの推定
田中 良明 (東京大学 大学院工学系研究科)
6. 衛星観測水面標高データを用いた河川氾濫モデルの河道深パラメータの推定
塩澤 拓斗 (東京大学 大学院工学系研究科)
7. Assessment of Flood estimation by TE's system -- in case of Indonesia
馬 文超 (東京大学 生産技術研究所)
8. 合成開口レーダを用いた高解像度全球地表水マッピングへの挑戦
新井 峻太 (東京大学 大学院工学系研究科)

9. Improvement of atmospheric prediction by data assimilation using Gaussian transformation of cloud cover

王 小醒 (東京大学 大学院新領域創成科学研究科)

10. 軌道要素変化がもたらす北半球高緯度気候変化の季節性と植生・雪・アルベドフィードバックの役割

木野 佳音 (東京大学 大気海洋研究所)

11. JRA55 に基づく海洋モデル駆動のための大陸河川流量データセット

鈴木 立郎 (海洋研究開発機構)

12. 全球陸面過程モデルを用いた雪氷藻類繁殖分布の要因解析

大沼 友貴彦 (東京大学生産技術研究所)

・ 2 日目 (10 月 9 日)

9:30-10:00 APHRODITE : 冬季降水量の定量評価ー内挿誤差と捕捉率の補正ー

谷田貝 亜紀代 (弘前大学 大学院理工学研究科) ※招待講演

10:00-10:20 MATCRO の開発・改良・応用

増富 祐司 (茨城大学 農学部)

10:20-10:40 MIROC/SPRINTARS を使ったシベリア森林火災の現在気候・将来気候への影響解析と MATSIRO アップデート状況報告

安成 哲平 (北海道大学 北極域研究センター)

10:40-11:00 陸域積雪ペースメーカー実験による気候への影響評価

大沼 友貴彦 (東京大学 生産技術研究所)

11:00-11:20 ISIMIP2b の簡単なモデル比較解析の結果とモデルの違いまとめ

佐藤 雄亮 (国立環境研究所)

11:20-11:40 地球システム統合モデル (MIROC-INTEG-ES) の開発と永久凍土融解の将来予測

横島 徳太 (国立環境研究所)

11:40-12:00 MIROC-ES2 を用いた CMIP6 実験 : C4MIP/LUMIP 実験等

羽島 知洋 (海洋研究開発機構)

12:00-12:30 総合討論

12:30ー 昼食

14:00ー 貸切バス発（至仙台駅）

協賛

- ・文部科学省 統合的気候モデル高度化研究プログラム
- ・文部科学省 北極域研究推進プロジェクト
- ・科学研究費補助金 特別推進研究 グローバル水文学の新展開
- ・内閣府 SIP「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」